



UNIFY4.0からUNIFY DataServer ELS へのコンバージョン

DataServerELSインストールディレクトリ /home/ELS

1. データベースの移行

Step1 DataServerELSの環境変数の設定

```
DBPATH=/home/ELS_DB; export DBPATH
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH ; export PATH
UNICAP=/home/ELS/lib/unicap ; export UNICAP
TERMCAP=/home/ELS/lib/termcap ; export TERMCAP
UNIFY=/home/ELS/lib ; export UNIFY
```

Step2 データベースのコピー

UNIFY 4.0 のDBPATH に設定されているディレクトリ以下の全ファイルを UNIFY DataServer ELS の環境へコピーする。

[例]

```
$ cd /home/U40_DB          unify 4.0 のディレクトリ
$ cp * /home/ELS_DB/.     DataServer ELSの$DBPATHへ全ファイルをコピー
```

Step3 共有メモリIDの削除

ipcsで共有メモリIDを調べ、ipcrm _mで削除する。

Step4 自動変換

シェルスクリプト unify を実行し、UNIFY DataServer ELS を起動する。
データベースは、この時点でUNIFY DataServer ELS へ自動変換される。

Step5 自動変換後の確認

ELS のメインメニューより「3. SQL-問合せ / DML 言語」を選択し
sql> のプロンプトから tables を実行する。

[例]

```
sql> tables
tbl1      tbl2      tbl3      tbl4      tbl5      tbl6
```

全テーブルが正しく表示されていることを確認する。
問題なければ、データベースの移行は正常終了である。

2. データベース移行後の作業

Step1 システム・タイトルの変更

画面に表示されるシステム・タイトルは、移行前の状態になっている。

```
"UNIFY DBMS 4.0"
```

「システムパラメータの変更 (parmnt)」を使用して、システム・タイトルを次の名称に変更する。

```
"UNIFY DataServer ELS"
```

Step2 B ツリーインデックスの再構成

「B ツリーインデックスの追加 / 削除 (idxmnt) 」を使用して、
全 B ツリーインデックスの再構成を実行する。

Step3 日付データの定義

- (1) 属性DATEの表示フォーマットは、UNIFY4.0ではDATETPで設定したが、
UNIFY DataServer ELSでは、DATETPを使用せず、かわりにSDATFMTを
を使用する。

[設定例]

```
SDATFMT=YY/MM/DD  
export SDATFMT
```

- (2) UNIFY DataServer ELSは、2桁年フォーマットの日付データを2000台の日付と
して認識させる機能を持っている。
これを実現させる環境変数CENTURY_CUTOFFを設定する。

[設定例]

```
CENTURY_CUTOFF=20  
export CENTURY_CUTOFF
```